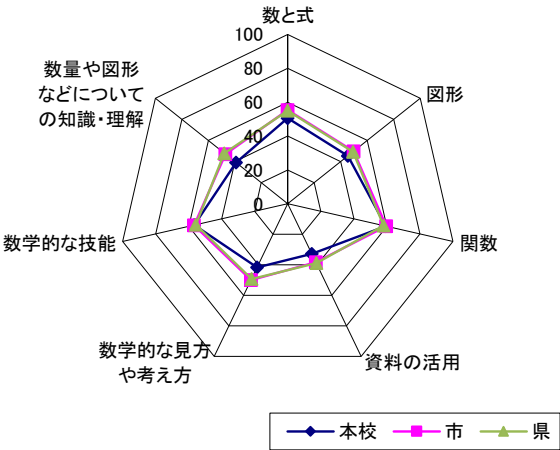


宇都宮市立 宝木 中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	50.6	55.4	55.0
	図形	45.4	49.8	49.2
	関数	59.3	59.6	58.0
	資料の活用	32.7	38.3	38.9
観点	数学的な見方・考え方	41.7	50.0	49.3
	数学的な技能	56.6	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	39.1	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率について、県平均と比べると-4.4ポイント、市平均と-4.8ポイントであった。 ○一次式の計算や一次方程式を解く計算力が身に付いている。 ●自然数の知識理解に対する問題や数量の関係を文字に表す問題に課題が見られる。	・用語の意味に対して何回も反復させる。 ・文章を読み取る力をつけるため必要ところをアンダーラインをつけ、求めることを波線をつけるなどの工夫をさせる。考える力をつけさせるため発言する機会を多くする授業の展開を図る。
図形	平均正答率について、県平均と比べると-3.8ポイント、市平均と-4.4ポイントであった。 ○おうぎ形面積を求める問題は市平均より10.7ポイント上回っている。ねじれの位置を考える問題も身に付いている。 ●空間的なものの見方や考え方に課題が見られる。	・空間図形において、いろいろな見方や表し方について理解し、実際に図形に触れながら考察できるようにしていく。 ・コンピュータ等を活用しながらいろいろな見方ができるように考察させる。
関数	平均正答率について、県平均と比べると+1.3ポイント、市平均と-0.3ポイントであった。 ○座標の位置や比例のグラフを式から求める数学的技能を問う問題は身に付いている。 ●数量関係を見取ったり、考えたりすることに課題が見られる。	・伴って変化する2つの数量は何かを押さえ、数量の変化の仕方にどんな関係があるのか、どんな式を立てたらいのかを考えさせることを繰り返し行う。
資料の活用	平均正答率について、県平均と比べると-6.2ポイント、市平均と-5.6ポイントであった。 ○相対度数を求める問題は身に付いている。 ●中央値や階級値などの用語の意味の定着が図られていない。	・用語の定着と求め方の練習を何度も繰り返し復習させる。 ・授業の中でも繰り返し復習させ、理解させる。